

6 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和7年6月12日（木）
- 2 開 催 場 所 中央図書館 2階 視聴覚室
- 3 出席した委員 小南教育長、溝口委員、播委員、土屋委員、小林委員
- 4 出席した職員 鹿間教育総務部長、松尾教育指導部長、
鷹津教育総務部次長、藤原教育指導部次長、
尾崎教育指導部学校教育担当参事、
今津教育指導部教育支援推進担当参事、
井上教育指導部部活動地域展開推進担当参事、
真鍋教育指導部ダイバーシティ教育推進担当参事、
福本教育総務課長、大崎学務課長、岡本社会教育課長、
岡本学校教育課長、岡本教育支援課長、
窪田教育総務課副課長、竹内教育総務課管理調整係長
- 5 傍 聴 者 なし
- 6 議 事 の 要 旨
 - 開 会 午後2時
 - 会議録署名委員指名のこと
溝口委員に決定
 - 5月定例教育委員会の会議録報告承認のこと
（事務局より会議録朗読報告）
承認
 - 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(専決報告)

- 1 加古川市社会教育推進員の委嘱について
(教育指導部次長から説明)
承 認

- 2 加古川市社会教育推進員の委嘱について
(教育指導部次長から説明)
承 認

- 3 学校運営協議会委員の委嘱について
(教育指導部参事から説明)
承 認

教 育 長 : 加古川中学校区の活動について詳しく説明をしてもらいたい。

事 務 局 : 加古川中学校区においては、「人権教育のさらなる充実」をテーマとして、校区内の人権文化センターの事業を通じて、学校、保護者及び地域が一体となって人権教育を進めている。この度さらなる発展を目指し、委員を追加するものである。

- 4 加古川市少年愛護センター運営協議会委員の委嘱について
(教育指導部参事から説明)
承 認

(協議事項)

- 1 令和8年度使用加古川市立学校用教科用図書採択基本方針の策定について
(教育指導部参事から説明)
原案可決

教 育 長 : 今後の学校用教科用図書の採択スケジュールについて伺う。

事 務 局 : 令和9年度に小学校、令和10年度に中学校を予定している。

- 2 加古川市特別支援教育就学・進路支援委員会委員の委嘱及び任命について
(教育指導部参事から説明)
原案可決

教 育 長 : 活動実績及び活動目標について詳しく説明をしてもらいたい。

事 務 局 : 令和6度には計6回の会議を開催し、281件の案件を審議し判定を

行った。そのうち 254 件が判定結果通りに就学している。

令和 7 年度の活動目標としては、委員の負担軽減のため事務局で審議資料をより精査し、審議しやすい環境を整えていくこととしている。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

7 月 10 日（木）午後 2 時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

（１）令和 7 年第 2 回市議会（定例会）一般質問について

6 月 3 日（火）、4 日（水）に実施された一般質問について、教育委員会関係部分の質問議員と質問内容について報告した。

（２）令和 7 年第 3 回加古川市議会（臨時会）日程（案）について

令和 7 年第 3 回加古川市議会（臨時会）日程（案）を説明した。

（３）令和 7 年第 4 回加古川市議会（定例会）日程（案）について

令和 7 年第 4 回加古川市議会（定例会）日程（案）を説明した。

○ 教育委員諸報告

〔小林委員から〕

（１）水泳授業の民間委託事業の視察について

各児童の泳力に合わせた指導によって、水泳が苦手な児童がペットボトルを用いて笑顔で泳いでいた姿が印象的であった。自分もできるという感覚を養い、自信につながることで能力の差が気にならない授業だと感じた。

〔播委員から〕

（１）総合文化センターの視察について

総合文化センターの視察を通じて、加古川市は石器時代から栄えた地域であることが分かった。この時代は人口も少なかったと考えられ、住みやすい豊かな地域だったからこそこの地に史跡が残っているものとする。このような施設をこどもたちの学びを深めるきっかけとしてももらいたい。

〔土屋委員から〕

（１）水泳授業の民間委託事業の視察について

当該事業は、市内全体に広がっていくべきものであると考えるが、実施済みの学校と未実施の学校との不公平感を最低限としていけるようバランスを図りつつ、丁寧に進めてもらいたい。

事務局：本事業はバスによる移動が伴うことから、移動距離等が物理的に可能な学校においては、民間委託を実施する方向で考えて行きたい。

遠方で民間施設への移動が困難な学校においては、インストラクターを派遣し、当該校のプールで指導を実施する方法を検討している。
また、民間施設側の受け入れ体制やキャパシティも課題となっており、引き続き調整を進める。

〔溝口委員から〕

(1) 市立学校の制服について

先日、他県で電車に乗っていると、スラックス姿の女子生徒を複数見かけた。周りの状況を見ると特別な様子はなく、当たり前前の光景として受け入れられ多様性の社会が進んでいるように感じた。

加古川市内の中学校の制服についてはどのような状況か。

事務局：市立の中学校については、今年度からすべての学校において制服の種類を本人の意思で選択できるようになっている。

(2) 児童生徒と地域住民との関りについて

先日、雨の日に傘も差さずにひとりで帰っている小学生を見かけたため、声をかけた。嫌がる素振りもなかったため私の傘と一緒に入って、その子の自宅まで送り届けた。送り届けた後、ひとり歩きながらふと「自分はいいいことをしたのか。」と悩んだ。

昨今、児童生徒には「見知らぬ人には関わらない。」といった指導をしていると思うが、改めてこのケースのように児童生徒と地域住民との関わり方が非常に難しいと感じたため、事務局より意見を伺いたい。

事務局：学校現場では、もちろん「見知らぬ人には関わらない。」といった指導は行っているが、その人の様子を見てこどもたちなりに判断し、情報を整理することの大切さも併せて伝えている。

昨今、親切や思いやりを社会の中で感じにくくなっていると考えます。
学校運営には地域の方々との繋がりは必要不可欠であり、このような善意の行動は広がっていくべきものと考えます。

しかしながら、人の善意を利用する者も一定数存在することから、こどもたちには危機管理・危険回避を主体的に判断できるように指導していく必要があると考えます。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 就学援助の申請受付について

就学援助の申請受付が6月2日（月）から6月10日（火）までを集中受付期間とし、その後は学務課窓口にて随時受付を行う。

また、令和7年度からオンライン申請を開始し、6月2日（月）から6月15日（日）までの間で受付を行う旨を報告した

(2) 小・中学校児童生徒・学級数推計について

小・中学校児童生徒・学級数推計について報告した。

委 員 : 単学級で推移する学校が複数あるが、クラス替えのない単学級のデメリットを解消するためにどのような取組を検討しているのか。

事 務 局 : 学校規模の適正化として将来的な児童生徒の推計等から学校の在り方を地域で考えていただく働きかけを行っている。

教 育 長 : 様々な形の学校が存在して然るべきであり、現在は過渡期にあると考える。しかしながら、保護者や地域の理解がなければ進めることはできないため、様々な形を検討しつつひとつひとつ積み上げていくこととなる。

委 員 : 就学援助のメニューは、これで充足していると思うか。
また、鳩里小学校と平岡北小学校の2校は推計値が伸びているが、開発などの要因はあるか。

事 務 局 : 就学援助のメニューに関しては、文部科学省より示されているメニューに準ずる形としている。

また、推計値に関しては、令和7年5月1日付で住民基本台帳に登録されている0歳以上の者を指定校区に割り振り、過去3年間の入学率を乗じて機械的に算出しているため、当該2校の推計値が伸びている具体的な要因までは把握できていない。

以上、2件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 令和7年度加古川市社会教育・福祉教育推進員全市研修会の開催報告について
6月1日(日)に開催した令和7年度加古川市社会教育・福祉教育推進員全市研修会について報告した。

(2) 令和7年度教科書展示会の開催について
6月13日(金)から教科書展示会を開催することについて報告した。

(3) 教職員の働き方改革「共同メッセージ」について
兵庫県教育長と県内市町教育長による「共同メッセージ」について報告した。

(4) 令和7年度加古川市教育委員会主催初任者研修の実施について
令和7年度の加古川市教育委員会主催初任者研修の実施について報告した。

(5) 令和7年度『未来を拓く学び』の実現を目指す研修講座等の開催について

令和7年度の『未来を拓く学び』の実現を目指す研修講座及び全市選択必修研修の開催について報告した。

(6) 「加古川市子どもの読書活動推進計画（第4次）」の策定について

令和7年度から5年間を見据えた「加古川市子どもの読書活動推進計画（第4次）」について報告した。

委 員 : こどもたちが自分に合った本の選択をサポートする体制はあるか。

事 務 局 : 中学校では、図書委員会が中心となり図書室でおすすめの図書を紹介することや、両荘みらい学園の図書館司書にも選書等に関わってもらい、生徒が読みやすい図書のPRを行っている。

小学校では、週1回程度「図書の時間」を設け、本に触れる機会を創出している。シリーズになっている図書が児童たちに選ばれやすい。

また、活字が少なくイラストの多いものを選択する傾向が年々強くなっているように感じる。校長・教頭やボランティアの推薦図書として推薦の理由を付して紹介することで図書を選びやすい環境をつくるといった取組を行っている学校もある。これまであまり本に触れなかった児童が1人1台端末を用いて電子図書館を活用する様子が見られるようになっている。

このように様々な機会を用いて、こどもたちが話や文字に親しみやすくなるように、本計画のもとで取組を進めてまいりたい。

委 員 : この推進計画を手にとった市民の方々が興味を持ってもらえるような取組指標の設定を次期計画の際にさらにブラッシュアップしてもらいたい。

以上、6件について報告

○ 閉 会 午後3時30分